意見募集の結果について

1 素案からの主な変更点

意見及び検討会議等をふまえ、主に以下の変更を行った。

- ・第2章の現状と課題に教員を対象にしたアンケートの結果を追記した。
- ・第5章の施設整備方針にその他の諸室に関する項目を追記した。
- ・第6章の実現に向けてに実現イメージを追記した。
- ・より伝わりやすくするための各表記、図の修正を行った。

2 意見募集の結果

(1) 実施概要

募集期間	令和6年12月11日～令和6年12月26日
意見募集広報	区報、ホームページ、こうとう情報ステーション、窓口
対象者	区内在住、区内在勤
意見数	20件(8人)

(2) 意見の概要

- ・セキュリティーの強化について
- ・学校プールの在り方について
- ・こどもの支援の場について
- ・環境配慮について
- ・防災について
- ・教職員の執務環境について
- ・プライバシー配慮について
- ・その他工事中的環境や工事の改築・改修時期について

(3) 意見要旨と区の考え

分類	意見要旨	区の考え
セキュリティー等	学校への侵入犯罪を防ぐためセキュリティーを強化してほしい。警備員の配置も検討するべき。	学校運営中は防犯カメラや校門等の電気錠によって、時間外は機械警備等により、外部からのセキュリティー対策を行っております。

	子供への人権侵害等防止のため、録画録音機能のある監視カメラをすべての学校施設に設置してほしい。子供のいじめにおいても証拠になる。	校舎外からの防犯カメラは各校に設置しております。校内については、人目が届かず死角となる場所を生じさせないように平面計画を工夫してまいります。
プール	プールは屋内にして、365日使用できた方がよい。	屋内プールの設置は、建設コストや維持管理コスト面で屋外プールと比べて差があり実現が難しいです。一方で、集約化によるコストダウンや民間プールの活用なども含めて、今後の水泳指導のあり方については、総合的に検討していきます。
	学校のプールは、設置が必要かをコストも含めて検討すべき。民間のプール利用も検討すべき。	学校の水泳指導における民間施設等の活用は、コストのほか他自治体の実施状況や今後の水泳指導をふまえて総合的に判断してまいります。
こどもの支援	学習障害等の児童が、通学を苦痛に感じて不登校にならないように、学習サポートをしてくれる人員や施設を豊洲エリアに作ってほしい。	学習障害等の児童への対応については、関係部署と連携し支援を進めてまいります。
	すまいる学級（知的発達遅れのない自閉症・情緒障害を対象とした特別支援学級）を全ての小中学校に設置し、発達障害児への支援を強化すべき。	すまいる学級の対応については、関係部署と連携し支援を進めてまいります。
	放課後の子どもの居場所づくりとして、施設計画・施設運営上の工夫を示してはどうか。P.41記載の可動間仕切りで廊下と一体に出来る程度の工夫で満足せず、放課後や長期休暇中に子どもがのびのびと過ごせる場としての学校を目指してほしい。	本ビジョンは、今後の学校施設の整備方針になります。放課後支援に関する施設運営等を含めた計画は、別途「江東区放課後こどもプラン」があり、こちらに基づいて居場所づくりを進めていきます。具体的な計画については、本ビジョン及び放課後こどもプランを基に設計の中で検討していきます。

環境配慮	自然環境への配慮には、ZEB Ready や Nearly ZEB などの意欲的なビジョンを示してはどうか。	自然環境の配慮については、省エネ性能に優れた機器の採用のほか太陽光発電設備など再生可能エネルギーの活用、緑化などを進めていきます。各種 ZEB については改築設計時に、対応が可能か検討していきます。
防災	P. 43 に記載のマンホールトイレは、P. 64 の施設整備方針 5 に記載の横並びの配置では実際に使用する際のテント等を考慮した左右の間隔が必要なので、表記の仕方を変更した方が良く思う。	施設整備方針は、設計時の考え方の指標を示しています。マンホールトイレの位置については、設計段階にて設置するテントや器具を考慮した配置を計画していきます。
執務環境	P. 38 に記載の基本方針 2-③に関して、職員室とは分離した休憩室等、教職員のスペースはしっかり確保して欲しい。	教職員のスペースについては、本ビジョンの基本方針に基づき可能な限り整備を進めていきます。
プライバシー配慮	P. 46 に記載の基本方針 6-③「児童・生徒のプライバシーに配慮」ですが、プールは日除けのためにも、目隠し(利用時間に合わせてネットを張る等)ができるようにしてもらいたい。学校周辺に後からマンションが建つことで見えてしまう事がないように、事前にしっかり確認をして対応して欲しい。	改築校においては、設計段階よりプライバシーに配慮した目隠し等の設置を行なっていきます。近隣環境の変化によって配慮の必要が生じた場合には、学校状況や設置環境を考慮したうえで、必要に応じてネット等の対応を検討していきます。
改築・改修時期	P. 4 の記載にて各学校の建築年度はわかるが、どの学校がいつ改築や大規模改修になるかわかる一覧が欲しい。	今後の改築、大規模改修の計画については、「江東区学校施設長寿命化計画」の使用年数及び改修サイクルの考え方にに基づき進めていきます。各学校の具体的な改築、改修時期については、「江東区長期計画」の中で定め、掲載しております。

工事中の教育環境	P.71 に記載の 6.2「工事中の教育環境確保」ですが、仮校舎の場所が深川南部からでは遠い。今後も毎年改築・大規模改修があると思うので、深川南部地域に仮校舎になるような施設を作る検討も必要ではないか。	仮校舎の配置については、学校の負担とならないよう可能な限り現在の位置に近い場所に設けることが理想です。一方で、土地確保の課題もございます。比較的新しい学校の多い臨海部地域において、将来的に改築、改修需要が高まることを考慮して、土地の確保も含めた仮校舎の必要性については検討していきます。 また、学校や敷地の状況に応じて仮校舎を使わない手法（敷地内プレハブ校舎建設等）についても検討し、工事中の教育環境を確保していきます。
計画全般	ダイバーシティ&インクルージョンに対する積極的な整備方針を記載してはどうか。バリアフリー化やバリアフリースイールの設置は、記載があってもよいが、今や当たり前である。	本ビジョンの基本方針2「快適な施設環境の確保」を実現することで、だれもが過ごしやすく使いやすい学校施設を目指していきます。
	改築校と改修校または既存校とでは、教育環境に雲泥の差があるため、公立学校として教育環境の平準化を進めてほしい。施設整備に差があるのであれば、DX 技術や IoT 技術等の代替措置で、どの学校でも同等の教育が受けられる環境を作してほしい。	改築校は自由度が高く、本ビジョンの実現及び現在のニーズに合わせた教育環境を整備することが出来ます。一方で改修においても制約がある中ではありますが、老朽化対策だけでなく、可能な限り本ビジョンの実現を目指していきます。

計画プロセス	P.74 に記載の 6.4「多様な声の反映」だが、改築時だけでなく大規模改修時にもワークショップの開催は必要かと思う。改修工事後にどうなるかがわかるほうが、保護者・地域への説明も兼ねることが出来て、丁寧に行われていると感じる。	大規模改修の場合、既存躯体を残したまま工事を行うことから制約のある計画となるため、これまでワークショップは実施しておりませんが、今後は本ビジョンを活用しながら、学校関係者と協議のうえ改修後のイメージについて伝え方を工夫していきます。
	P.34 に記載の基本方針 1-⑤「学校や地域がこれまで大切にしてきたものを再利用やデザインなどに生かし」とあるが、誰がそのデザインを考えるのか。地域でアンケートを実施するのか。 記載のある数矢小の矢羽のデザインは素敵だが、それがどのように選ばれたのか事例も紹介して欲しい。	改築校は、ワークショップ時に地域や子どもも含めた学校関係者から「現在の学校の誇らしいところ、残したいところ」について意見を頂き設計に反映しています。改修校の場合は、学校関係者と協議のうえでデザインを選定しています。
その他	6つの基本方針などとても良い考え。この将来ビジョンの基本方針に則った改築がされることを期待する。	基本方針をはじめとした将来ビジョンの内容の実現に向けて、改築・改修工事を進めてまいります。
	学校と高齢者福祉施設等の複合施設によって効率的建設のほか、世代間交流も生まれる。子どもの非行減少にもなるので、施設の複合化を期待する。	学校施設の複合化については、「江東区公共施設等総合管理計画」に基づき、改築工事の際に施設の特長や用途等を踏まえ検討してまいります。
	改築校に他校の子どもが訪れ、最新の学習空間の利用を体験したり、校舎を見学するなど、施設体験の機会の均等を図ってはどうか。	改築時に実施しているワークショップの際には、直近に完成した学校を見学する取組みを行っており今後も活用していきます。 施設体験については、いただいたご意見を共有させていただき、より良い教育環境の実現に努めてまいります。